

令和2年度

岡山県立博物館協議会

第1回 開催要項

1 開会

2 議題

(1) 令和元年度事業について

ア 展覧会（自己評価シート）

イ 教育普及事業

ウ 入館状況

エ 来館者アンケート集計結果について

(2) 第2次岡山県立博物館中期目標の達成状況について（令和元年度）

(3) 県立博物館耐震改修工事等について

(4) 第3次岡山県立博物館中期目標の策定について

(5) その他

3 閉会

日 時：令和2年10月7日(水) 13:30～15:30

会 場：岡山後楽園 鶴鳴館

(1) 令和元年度事業について

ア 展覧会

☆広報テーマ

岡山県立博物館 令和元年度展示実績

令和2年3月31日現在

	第1室 (考古)	第2室 (歴史・美術)	第3室 (通史・特別陳列ほか)	第4室 (備前焼・刀剣・工芸)	オープン スペース	2階ホール
(3/26)～4/21 春季展(2) 24(27)日	古代吉備の世界 —岡山県内出土の考古資料—	岡山中世寺院文書 岡山の仏教美術 岡山の狛犬	岡山の歴史早わかりコーナー(通史) 桃の節句	備前・備中・備後の刀剣 ☆<特別陳列>虫明焼	ちやぶ台の ある風景	
4/24～6/2 春季展(3) 35(40)日	古代吉備の世界 —岡山県内出土の考古資料—	豊臣政権期の岡山 木簡 岡山の仏像と神像①	岡山の歴史早わかりコーナー(通史) 子どもの遊びと、子どもの学び①	☆<特別陳列>厩徹 備前焼の歴史	ちやぶ台の ある風景	5/5甲冑体験
6/4～7/15 夏季展(1) 37(42)日	☆<特別陳列>岡山の三角縁神獸鏡 古代吉備の世界 —岡山県内出土の考古資料—	岡山の教育と学問—関谷学校— 木簡 岡山の仏像と神像②	岡山の歴史早わかりコーナー(通史) 子どもの遊びと、子どもの学び②	備前刀と幕末の名刀 備前焼の歴史	ちやぶ台の ある風景	
7/17～8/25 夏季展(2) 35(40)日	古代吉備の世界 —岡山県内出土の考古資料—	岡山ゆかりの古文書 木簡 岡山の仏像と神像② 伝える、祈りのこころ—真備町大日庵の仏さま—	岡山の歴史早わかりコーナー(通史) ☆<特別陳列> 平和の尊きみつめなおす—子どもたちのくらしから—	よみがえった備前刀 備前焼の歴史	ちやぶ台の ある風景	
8/29～10/6 企画展・秋季展(1) 34(39)日	古代吉備の世界 —岡山県内出土の考古資料—	☆企画展 「物見遊山—江戸の旅模様—」	岡山の歴史早わかりコーナー(通史) 来た見た買った! 旅模様今昔	よみがえった備前刀 備前焼の歴史	ちやぶ台の ある風景	
10/11～11/10 特別展・秋季展(2) 27(31)日	☆特別展(2室) 「岡山の日蓮法華」		岡山の歴史早わかりコーナー(通史) 特別展「岡山の日蓮法華」 考古展示	備前刀(奉納刀) 備前焼の歴史		11/3甲冑体験
11/15～12/22 冬季展(1) 33(38)日	古代吉備の世界 —岡山県内出土の考古資料—	☆<特別陳列>おかやま人物事典 国学者・藤井高尚 桃山時代の屏風	岡山の歴史早わかりコーナー(通史) 冬支度	☆<特別陳列>赤韋威鏝 備前刀(奉納刀) 備前焼の歴史	ちやぶ台の ある風景	
1/1～2/9 交流展・冬季展(2) 35(40)日	古代吉備の世界 —岡山県内出土の考古資料—	☆交流展 「正岡子規と仲間たち」	岡山の歴史早わかりコーナー(通史) 後楽園の名品	備前・備中・備前刀 備前焼の歴史	ちやぶ台の ある風景	1/3甲冑体験
2/14～3/31 特別展・春季展(1) 42(47)日	☆特別展(2室) 「備前のある場所——取り合わせの魅力——」		岡山の歴史早わかりコーナー(通史) 後楽園の名品	☆<特別陳列>山崎毛(2/29まで) 備前・備中・備前刀 備前焼の歴史	ちやぶ台の ある風景	

展 覧 会 自 己 評 価 シ ー ト

展覧会名 企画展「物見遊山－江戸の旅模様－」				開催期間 令和元年8月29日(木) ～ 10月6日(日)						
入館者等	目標(A)	6,000	実績(B)	4,862	達成率(B/A)	81%	収入予算額	593千円	実績	411千円
	一般	3,395	65歳以上	976	その他	491	支出予算額	1,284千円	実績	1,284千円
展示の趣旨・目的 さまざまな絵図や刊行物、旅道具、絵馬などを展示し、伊勢参詣などで賑わった江戸時代の姿をたどる。あわせて、「往来手形」や行倒人の記録を綴った古文書をもとに、当時の旅の現実について考察する。										
入館者アンケート								満足度	86.6%	
<肯定的> ・昔の旅の様子が手に取るようにわかった。江戸時代の旅をリアルに感じられた。展示解説が良かった。 ・遊山中の緊急時の対応について触れる展示会はこれまでなかったので、とてもよかった。 ・旅の心得は現代の旅にも通じるところがあり、興味深かった。それを最初に入れたのがよかった。(多数意見)										
<否定的> ・金比羅参り、四国88ヶ所、大山参りなど、もっと身近なところに視点を置いたらどうか。 ・展示物が少ない。写真等がもっとあって欲しかった。 ・チラシを見て、浮世絵の展示が多いと勘違いしていました。										
自己評価		全体評価								
江戸時代の庶民の旅に焦点をあて、その諸相を明らかにしようと試みた。6章立ての展示構成については賛否が分かれたが、来館者にとって興味深い資料を多く取り上げることができた。パネルやリーフレット、フォトスポット、展示解説の手法などに工夫を凝らし、江戸の文化に親しみが持てるような雰囲気作りに尽力した。										
個別評価						工夫・改善点				
①資料調査 前年度より計画的に進めることができ、また上司や同僚の補佐もあって比較的余裕を持って調査を進めることができた。						学芸員として経験不足の点是否めず、時間内に十分な調査をとることができないこともあった。予め作業できる分量などを調整し、事前に調査の段取りをシミュレーションする必要がある。				
②資料借用 図書館や博物館など、比較的借用条件が整っている場合が多く、予定通りに資料を借用することができた。						今回はトラブルもなく借用できたが、資料によってはより緻密な調査を取る必要があるように感じた。				
③展 示 構成に時間をかけ、ストーリー性のある配置を模索した。館内の美術担当・民俗担当からも助言や協力を頂いて、古文書だけでなくバラエティあふれる展示となった。						法量の大きい絵図などもあり、展示ケース内に入れるのに苦慮した。古文書は「読み」だけでなく、現代語訳などを求める意見もあり、より来館者の理解が深まる展示を心がけたい。				
④返 却 特に問題なく返却することができた。						返却の際に、一部借用した資料のキャプションや関連パネルを寄贈した(矢掛高校・矢掛町教育委員会など)。展覧会の成果を、教育の場などで活用してもらえたらありがたい。				
⑤図録等作成 展示ガイドのほか、当時の旅の心得、ある旅人の行程表などオリジナルのリーフレットを3種類作成した。来館者にも好評で、展示の見所を説明するツールとしても有効であった。						リーフレットは展示構成説明用の資料やパネル作成の準備段階でつくった資料をもとに作成した。使用する写真の明るさ・色合いなどもっと改善する必要がある。				
⑥関連行事 神崎宣武氏・有間宣久氏を招き、記念講演会を行った。両氏ともに分かりやすい内容で好評であった。また、毎週土曜日には担当学芸員による展示解説も実施した。						神崎氏は全国的に著名なので、2Fに特設会場を設けた。ただ、記念講演会の来場者数は未知数で、当日の運営に苦慮した。学芸員が江戸の服装で現れる演出は、準備にやや時間がかかった。				
⑦広 報 ポスター・チラシを県内各地に配布した。特に、ホテル、自治体の観光担当などを重点的に訪問して広報を行い、展覧会への来場を促した。また、公民館で関連する講演を実施した。						目標の入館者数を下回ったことの1つに、来館者の客層を見極められなかった点がある。また、郵送だけでは、学校や諸施設になかなか周知できていないのが現実である。				
【その他】 ■報道関係 新聞への掲載回数 26回										

展 覧 会 自 己 評 価 シ ー ト

展覧会名 特別展「岡山の日蓮法華」				開催期間		令和元年10月11日(金) ~11月10日(日)				
入館者等	目標(A)	8,000	実績(B)	10,729	達成率(B/A)	134%	収入予算額	1,517千円	実績	1,436千円
	一般	6,645	65歳以上	2,917	その他	1,167	支出予算額	5,062千円	実績	5,062千円
展示の趣旨・目的 大覚による岡山への日蓮法華宗の布教、中世期の各流派の広がり、不受不施派の禁止から再開といった、岡山ならではの日蓮法華宗の歴史と、曼荼羅や絵画に見られる美と特徴を紹介する。										
入館者アンケート								満足度	86.4%	
<肯定的> ・岡山の不受不施派についての理解がより深まった。日蓮宗の事がよくわかった。 ・日蓮聖人の文字を間近に見ることが出来た。大きな日蓮の曼荼羅が良かった。 ・仏像を拝むのが好きで、地方仏の拝観はなかなか機会がないので、今回は素晴らしいものであった。 ・一般公開されていない作品が多かった。作品の数が素晴らしい。										
<否定的> ・宗教を扱うのは難しいと思う。自分の勉強不足でもあるが、内容が少し難解であった。 ・中尾教授の講演を聞きにきたのに、満席の理由で開演前15分に扉を閉められた。										
自己評価			全体評価							
岡山の日蓮法華の歴史を、県内外の寺院の御宝物を幅広く丁寧に取りあげて紹介した。岡山の日蓮法華を大々的に取りあげた展覧会は史上初であり、日蓮御真筆を山陽地方で初めて展示できた意義も大きい。結果的に寺院関係者、信者はもちろん、一般の方々にも大変喜ばれる展覧会となった。										
個別評価						工夫・改善点				
①資料調査 長年の研究の蓄積があり、比較的余裕をもって調査を進めることができた。										
②資料借用 寺院からの借用が多く、一点一点を丁寧に梱包し借用了。日通と協力をしてスムーズに実行できた。						図録用の写真を撮り直すため、県内の寺については早めに借用した。仏像については、事前に日通と協力して測量などを行い借用日に安全に運べるよう確認した。				
③展 示 展示室を3室利用し、書画彫刻作品を幅広く展示した。寺院との信頼関係が構築されており、出品交渉もすべてご承諾いただけただけなので、数多くのご宝物を展示することができた。さらに、初公開の作品や本山の貴重なご宝物も数多くお借りすることができた。4章では岡山に祖山のある不受不施派について丁寧に紹介した。						流れが分かるような構成、作品配置に努めた。すべての文書に対し現代語訳を付けた。				
④返 却 比較的余裕を持って返却することができた。						借用時に取った調書に基づき、資料の確認を丁寧に言い返却した。運送業者は文化財の扱いに習熟した者に依頼した。				
⑤図録等作成 図録は途中で増刷をするなどかなり好評で、所蔵者の方々にも喜ばれた。						長年の研究に基づいた成果を十分に盛り込んだ。写真も新しく撮り直し、充実した内容の図録となった。				
⑥関連行事 立正大学名誉教授の中尾堯氏を招き、記念講演会を行った。会場は満席となり、分かりやすい内容で好評であった。また、本蓮寺、妙本寺において現地説明会を行った。参加者はいずれも100名を超える盛況であった。さらに、隔週土曜日には担当学芸員による展示解説も実施した。						中尾氏の記念講演会は2階に特設会場を設けたが、それでも入りきれないほどの来場者が訪れた。会場に入れなかった来場者には、講演会のレジュメを配布した。現地見学会では、詳細なレジュメとスライドを作成し、寺院を紹介した。				
⑦広 報 ポスター、チラシを各地に配布した。寺院関係者だけでなく、一般の人々にも幅広く関心を持ってもらい、県内外を問わず多くの来場者が訪れた。						日蓮法華関係者に全面的に協力を仰ぐことができた。寺院ネットワークを利用して、寺院の方々にチラシの配布を依頼し、展覧会の周知に努めた。				
【その他】 ■報道関係 新聞への掲載回数 36回										

展 覧 会 自 己 評 価 シ ー ト

展覧会名 交流展「正岡子規と仲間たち」		開催期間 令和2年1月1日(水) ～ 2月9日(日)			
入館者等	目標(A) 6,000	実績(B) 7,496	達成率(B/A) 125%	収入予算額 547千円	実績 361千円
	一般 5,425	65歳以上 1,164	その他 907	支出予算額 2,349千円	実績 2,349千円
展示の趣旨・目的					
愛媛県との交流展2年目は、俳句や短歌など多方面に活躍した松山市出身の正岡子規を取り上げた。正岡子規34年の生涯の中でどのような人々とともに過ごしていたのか、子規や岡山出身の仲間達の資料を通して紹介した。					
入館者アンケート					満足度 83.4%
<肯定的> ・企画が素晴らしい。赤木格堂の展示が良かった。 ・詳しい資料と解説で分かり易かった。キャラクターがかわいかった。 ・正岡子規と岡山県出身者との交流がよくわかった。 ・晩年に描いた花の水墨画がはかなく美しいと思った。					
<否定的> ・正岡子規に関するものが少なすぎる。 ・子規の句がどう評価され、今に至るかを説明して欲しい。					
自己評価		全体評価			
子規の実物資料展示には、限りがあったが、岡山県出身の子規ゆかりの友人・高弟の資料を活用したことで、岡山ならではの正岡子規の展示を開催することができた。					
個別評価			工夫・改善点		
①資料調査 調査対象館のほとんどが、松山市内であったため、日程を調整し可能な限り同日の調査を行った。調査段階で新たに発見された子規の友人や高弟等ゆかりの資料が県内外から多く発見された。			交流先の担当者との連携が大切だと改めて感じた。個人宅へ調査へ行くための県外調査旅費が十分ではなかった。		
②資料借用 子規の実物資料借用については、点数制限があり、レプリカを多数展示することになった。その一方で、岡山ゆかりの子規の友人や高弟の資料の多くは初出陳とし展示する事ができた。					
③展 示 子規が残した文字資料だけでなく、子規の仲間達に関する立体資料や、当時の様子が分かる写真等をパネルで紹介する等様々な資料を展示した。			乾燥時期の展示であったため、資料の特性を考慮して、途中展示替えを行った。		
④返 却 借用館だけでなく美術品専門運送業者の日程を合わせることが難しかった。			念入りに調整をした結果、余裕をもった返却日程を組むことができた。		
⑤図録等作成 来館者配布用の展示解説パンフレットを作成した。愛媛県の関係機関や所蔵者にも校正を依頼し、協力を得た。			可能な限り最新研究成果が紹介できるように、交流先をはじめ各分野の専門研究者と連携し、資料作成に努める必要がある。		
⑥関連行事 講演会2回、ボランティアガイド(4回)展示解説(3回)を実施した。いずれの講演会も予定人数を超え盛会であった。展示解説も回数を重ねるほどに参加人数も増えた。			講演会では、一人でも多くの方に聞いてもらいたいという講師の思いがあり、定員以上の方を受け入れた。しかし、安全を確保するためにも定員を超えた場合は資料配布のみにする方がよい。		
⑦広 報 当館の通常の広報先に加え、愛媛県や子規の自宅でもあった東京都の子規庵へも協力依頼をし、周知を図った。			展覧会や講演会に先立って新出資料などについて新聞掲載され、より多くの方に感心を持ってもらえた。		
【その他】 ■ 報道関係 新聞への掲載回数 60回					

展 覧 会 自 己 評 価 シ ー ト

展覧会名		特別展「備前のある場所 取り合わせの魅力」					開催期間	令和2年2月14日(金) ～ 3月31日(火)		
入館者等	目標(A)	8,000	実績(B)	11,234	達成率(B/A)	140%	収入予算額	1,216千円	実績	3,154千円
	一般	8,400	65歳以上	2,216	その他	618	支出予算額	6,431千円	実績	6,431千円
展示の趣旨・目的										
備前焼の魅力は、本来、茶室という環境のもと、様々な道具との取り合わせの中で見いだされてきた。今回、千利休らが活躍した時代の備前焼を茶道具の優品と取り合わせて、当時の茶会記や現代の茶人の見解と共に紹介する。										
入館者アンケート								満足度	93.3%	
<p><肯定的> ・器の組み合わせのバリエーションや、茶会の記録を一覧で見れ、比較できて楽しかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単に飾ってあるのではなく、取り合わせて展示されているので、実際に使われている様子が浮かんできた。 ・茶道に興味があり、名品の取り合わせの妙が作品の良さを一層引き立てていて面白いと思った。 ・茶器を備前だけでなく、他地域の焼き物も含めた水指、茶碗、茶入の総体として展示していた点が素晴らしかった。 <p><否定的> ・展示品の説明書を今少し詳細にした方が良い。</p>										
自己評価			全体評価							
来館者は、2月中は特別陳列山鳥毛と同時開催と重なり多かったが、3月以降は新型コロナウイルスの影響もあり大きく減少した。展示方法、図録などにおいて様々な工夫を行ったが、お客様にどのように届いたか、計りかねる展覧会となった。										
個別評価					工夫・改善点					
①資料調査 個人所蔵作品について調査協力が得られ、多くの初公開作品を紹介できた。					個人所蔵作品については、調査の許可を得るために複数回お願いしなくてはならない。日程の調整と旅費の確保が難しいが、総務課等の協力により、このたびは比較的順調に進めることができた。					
②資料借用 所蔵者、美術品運送会社の協力により、順調に進めることができた。					当館の予算の都合上、余裕をもって遠方まで借用に行くことは難しい。安全に作品を輸送し、充実した展覧会を行うためには、十分な費用を確保したいところである。					
③展 示 展示ケースに畳を入れる、展示補助パネルの作成、聞き取りによるキャプション、アンケートの声の掲示など、様々な工夫を行った。照明も1作品ごとに調整を行った。					照明、展示ケースなどが古く、作品を十分に鑑賞できる環境を作ることはできなかった。施設改善の必要性を強く感じた。					
④返 却 新型コロナウイルスの影響により遅延することになった。					予期せぬことが起こったときにも、連絡を丁寧に行うことにより、所蔵者等が不安を感じないように対応する必要がある。					
⑤図録等作成 本文編と資料編の2部構成とし、情報量の多い図録となった。また、デザインを専攻した職員の協力により、理解を助けるイラストを入れることができ、装丁も評価される本となった。					協力をお願いした職員に、非常に大きな負担をかけることになった。予算規模、期間、体制など、可能な事をよく考慮に入れて計画を立てる必要がある。					
⑥関連行事 開会当初に行った茶会は好評だったが、講演会と2回目の茶会は新型コロナウイルスの影響により中止となった。					予期しないことが起きた場合も、上司や関係者と連絡を取りながら、冷静に判断をする必要がある。また、行事を行うにあたっては、協力者の負担を減らすため、十分な予算を確保する必要がある。					
⑦広 報 新聞社、テレビ局、ラジオ局等から協力が得られたが、広く周知されたとは言いがたい。					報道機関等、広報を得意とし、文化財に理解のある団体に協力を求め、広報物の配布先も見直す必要がある。					
【その他】 ■報道関係 新聞への掲載回数 53回										

イ 教育普及事業

事業名	実績		備考
	H30	R元(H31)	
館内授業	55校、2,052人	59校、2,577人	
出前授業	12校、936人	11校、925人	
ジュニア歴史スクール	3校、146人	3校、71人	高梁市 1校 29人 玉野市 2校 42人 71人
ジュニア学芸員講座	22人	20人	
博物館講座	スタンダード 76人	スタンダード 58人	
	スペシャル 112人	スペシャル 100人	
博物館実習	16人	17人	
職場体験	9校、23人	6校、14人	

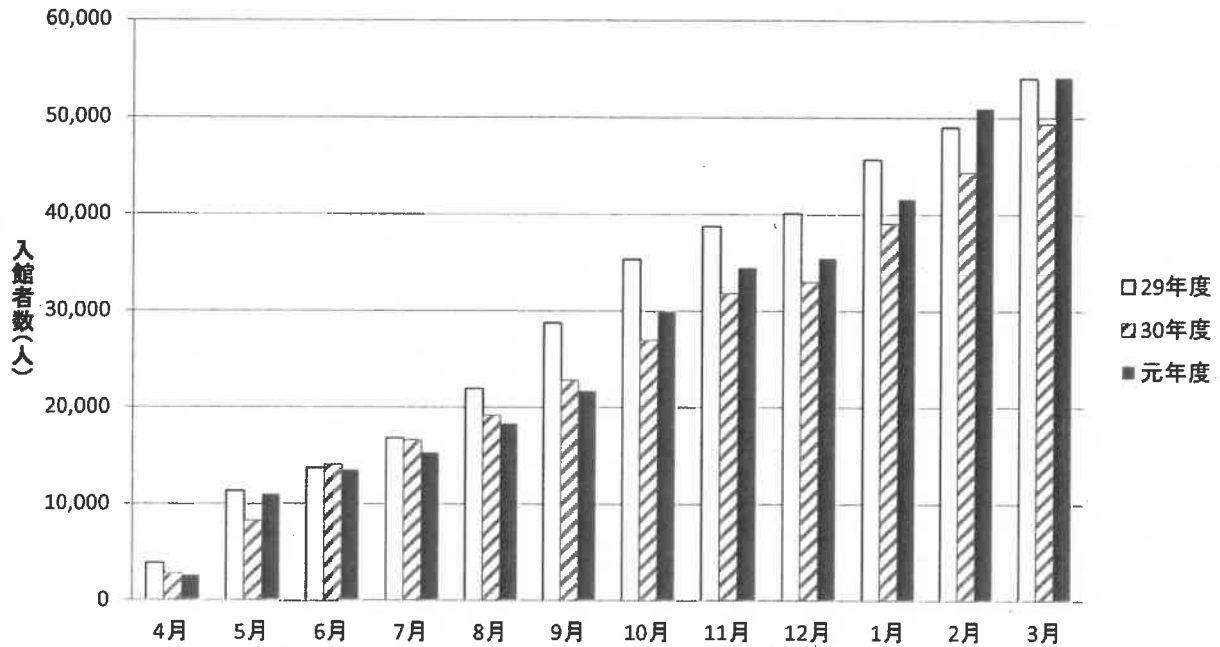
ウ 入館状況

月別入館者数

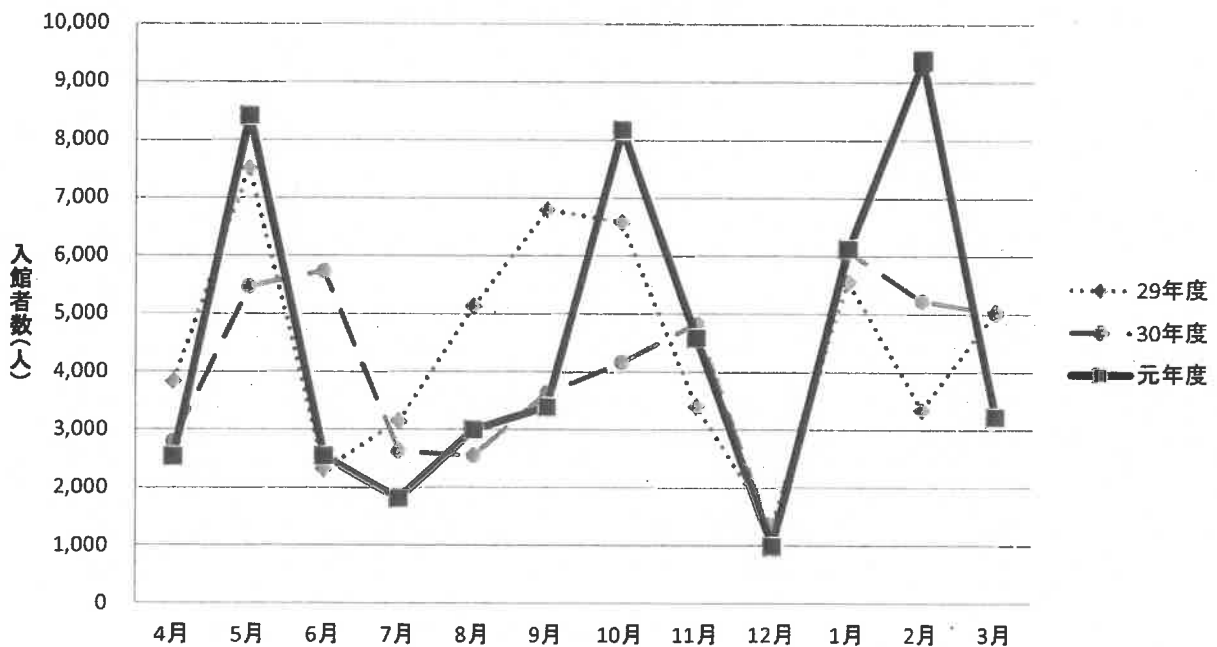
(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
29年度	3,837	7,512	2,311	3,146	5,138	6,799	6,582	3,414	1,350	5,560	3,349	5,046	54,044	6,463
30年度	2,787	5,472	5,736	2,638	2,556	3,632	4,165	4,825	1,180	6,077	5,223	5,016	49,307	△ 4,737
元年度	2,533	8,419	2,544	1,816	3,002	3,396	8,178	4,590	984	6,129	9,375	3,226	54,192	4,885

年度別 累計入館者数



年度別 月別入館者数

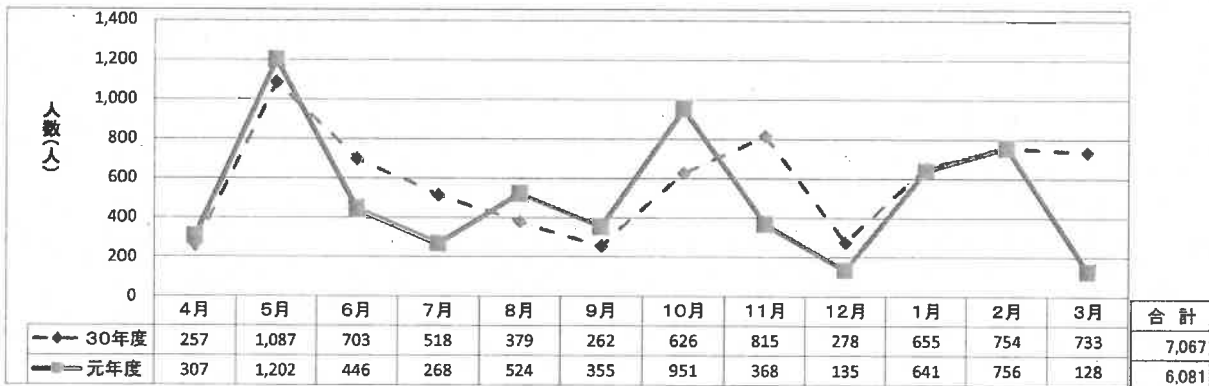


展覧会別入館者

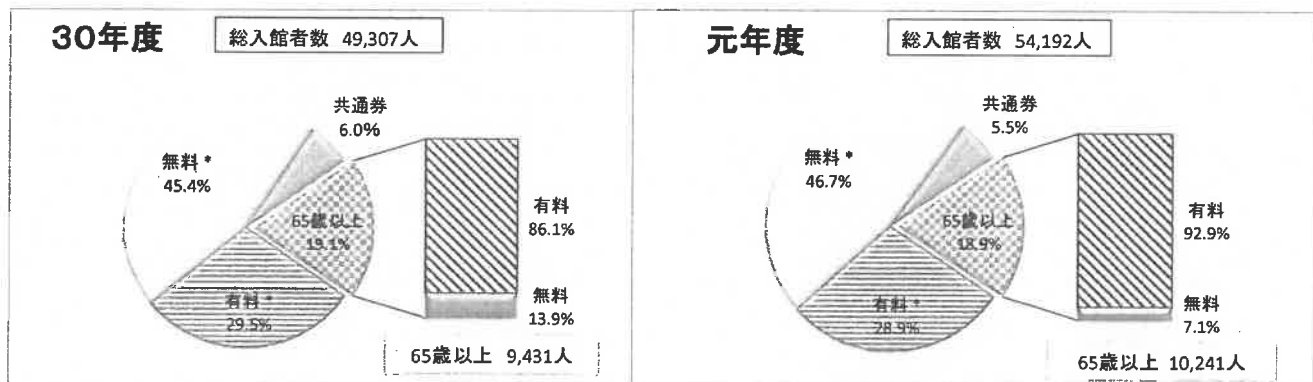
令和2年3月31日現在

展覧会名		目標に対する実績		達成率	入館者の割合
					一般 65歳以上 高校生以下
企画展	物見遊山(江戸の旅模様)	目標	6,000人	81.0%	69.8% 20.1% 10.1%
		実績	4,862人		
特別展	岡山の日蓮法華	目標	8,000人	134.1%	61.9% 27.2% 10.9%
		実績	10,729人		
	備前のある場所	目標	8,000人	140.4%	74.8% 19.7% 5.5%
		実績	11,234人		
交流展	正岡子規と仲間たち	目標	6,000人	124.9%	72.4% 15.5% 12.1%
実績	7,496人				
平常展		目標	22,000人	90.3%	70.5% 14.9% 14.6%
		実績	19,871人		
計		目標	50,000人	108.4%	69.9% 18.9% 11.2%
		実績	54,192人		

高校生以下の入館状況



入館者別割合



注: 有料* 無料* は、65歳未満の入館者をいう。

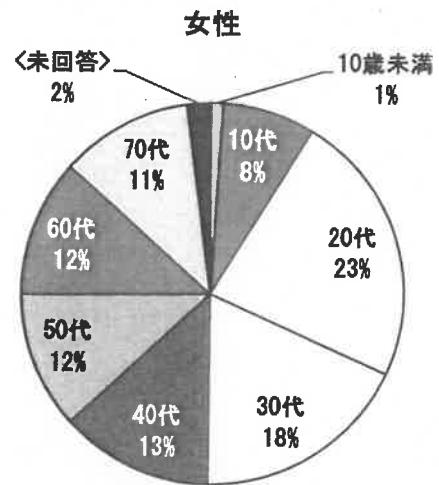
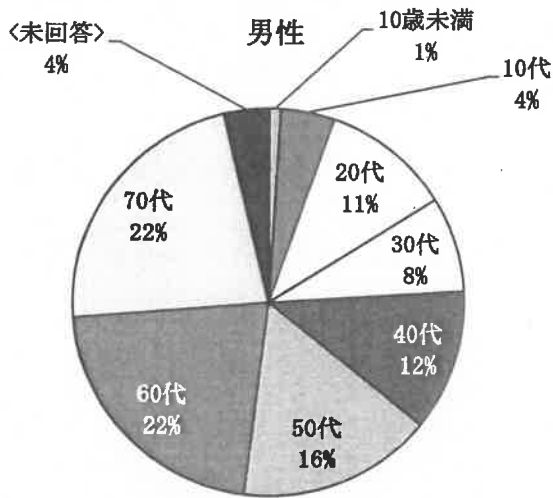
エ 来館者アンケート集計結果【令和元(平成31)年度】

◆アンケート回収率

展覧会名	会期	入館者数	アンケート数	回収率
春季展Ⅱ・Ⅲ	4/1～6/2	11,429	678	5.9%
夏季展Ⅰ・Ⅱ	6/4～8/25	6,198	626	10.1%
企画展「物見遊山-江戸の旅模様-」	8/29～10/6	4,862	441	9.1%
特別展「岡山の日蓮法華」	10/11～11/10	10,729	763	7.1%
冬季展Ⅰ	11/15～12/22	2,244	185	8.2%
交流展「正岡子規と仲間たち」	1/1～2/9	7,496	515	6.9%
特別展「備前のある場所-取り合わせの魅力-」	2/14～3/31	11,234	1,047	9.3%
合 計		54,192	4,255	7.9%

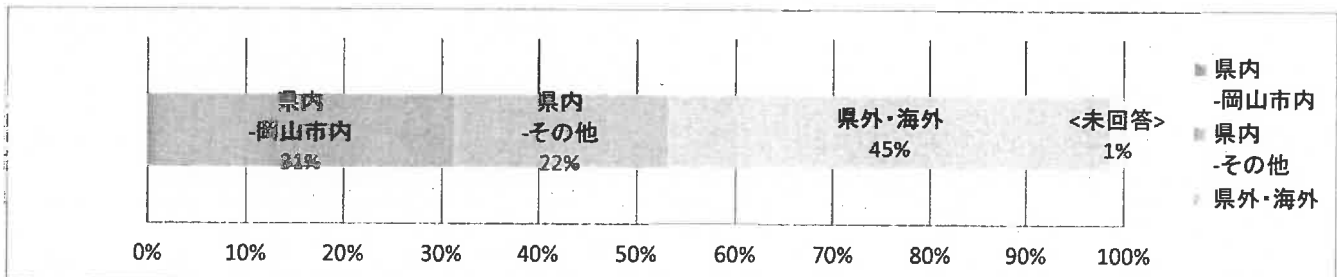
◆年齢構成

性別	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	<未回答>	性別合計
男性	20	99	239	177	264	360	486	501	85	2,231
女性	20	157	468	369	267	235	236	230	42	2,024
合計	40	256	707	546	531	595	722	731	127	4,255



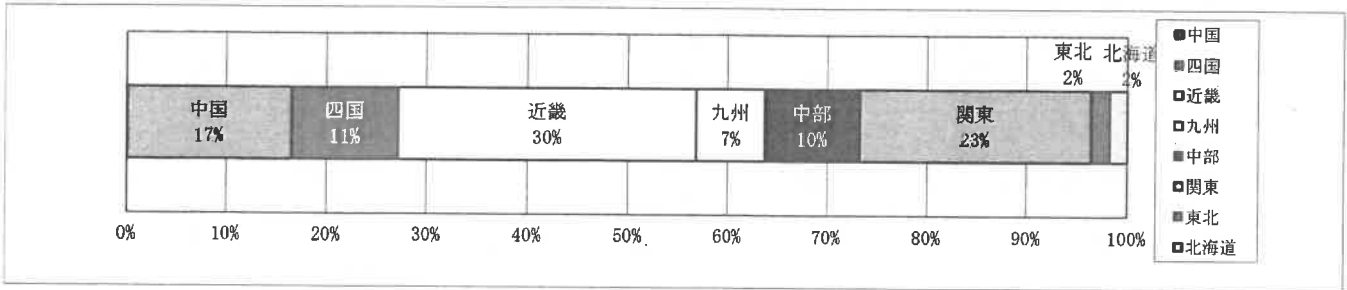
◆住所地一覧

住所地	県内 -岡山市内	県内 -その他	県外・海外	<未回答>	合 計
来館者数	1,327	934	1,934	60	4,255



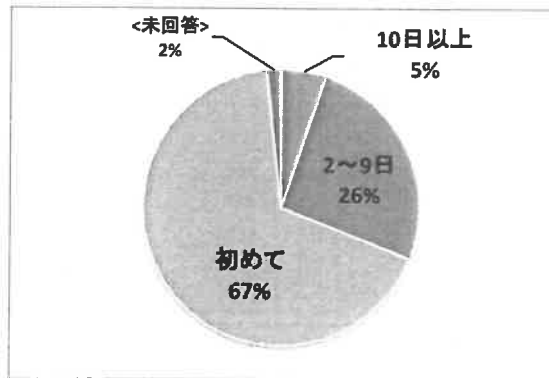
◆県外地方別一覧

地方	中国	四国	近畿	九州	中部	関東	東北	北海道	合計
来館者数	314	202	562	131	181	439	36	32	1,897



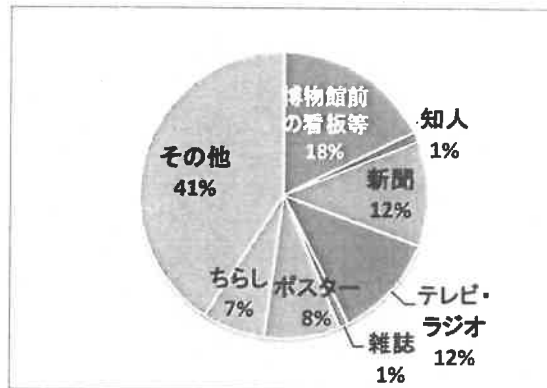
◆最近3年間の当館への来館日数

来館日数	回答数
10日以上	216
2~9日	1,103
初めて	2,860
<未回答>	76
合計	4,255



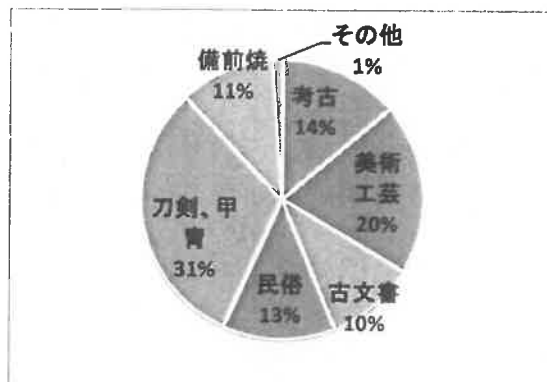
◆この展覧会を何で知ったか

広報媒体	回答数
博物館前の看板等	885
知人	56
新聞	593
テレビ・ラジオ	598
雑誌	50
ポスター	426
ちらし	353
その他	2,046
合計	5,007



◆今後どのような展覧会を希望するか

希望分野	回答数
考古	748
美術工芸	1,081
古文書	560
民俗	707
刀剣、甲冑	1,704
備前焼	597
その他	61
合計	5,458



(希望する内容)

希望分野	希望内容
考古	<p>岡山が昔、吉備の国であった頃、大和大国との関係等が知りたい。 色々な埴輪を見たい。 地域の仏教信仰に関するもの。 岡山県の県境や離島に関する歴史展示 古墳から古代寺院へ(7世紀の吉備の考古について) 県内に限らず、中四国を域として展示して欲しい。 古代から中世にかけて備前・備中の歴史的なものの展示ならなんでも良い。</p>
美術工芸	<p>仏像や狛犬とか、年始に出ていた狐の像のような系統の展示。 真備の仏像等の展示が良かったです。また、いつか展示でもう一度、見たいです。 明治や大正の美しい物の展示がみたいです。 以前、吉兆美術館で髪かざりの展示を見ましたが、同じ様なものをして欲しいです。(かんざし、くし等) 金工作家、備前焼作家、刀作家の作品をもっと見たい。 中世から近世の岡山の様子も知りたい。 高松城(備)関係の資料などを見たい(鬼ノ城など)。 仏教関連の展示 水墨画</p>
古文書	<p>宇喜多直家の展示が見たい。 検地帳や、その他庶民の生活に近い文書 鳥獣戯画が見てみたい。 池田家と秀吉、家康、信長との関係性についての解説。 百人一手、万葉集、古今和歌集 鎌倉・室町・戦国時代の古文書展 日蓮・法華宗等の古文書の展覧会</p>
民俗	<p>地域の歴史・特徴が分かる内容 明治、大正、昭和の人々(民衆)の生活用具などの展示をして欲しい。 それらの用具を一室に集めその時代の生活空間を再現して欲しい。 近代産業遺産の展示を見たい。 江戸時代に岡山、津山など地元の人ほどのような暮らしをしていたのか? 分かり易く。 明治初年のころの岡山の街を知りたい。</p>
刀剣、甲冑	<p>備前刀展をまた見たいです。今度は大包平等をぜひ、岡山で見たいです。 宇喜多直家の刀剣・甲冑 刀剣だけでなく槍、薙刀とかその辺りも…見たいです。 以前開かれた甲冑展がゴージャスで面白かったです。 国宝の日本刀 山鳥毛の展示をお願いします。 光忠、長光、景光、小豆、謙信、景信などの長船の刀が見たい。 山鳥毛と大包平の並んで展示されるのが見たいです。 古備前や長船の刀剣を見たいです。 刀装具、長船との合同展示会 南北朝時代の刀</p>
備前焼	<p>備前焼だけではなく、ほかの焼き物も。 昭和の物がもっとあると懐かしい気持ちになってよいかも。 日本の陶器 古備前 矢筈水指が1つ欲しい。</p>
その他	<p>万葉集 自然科学 城主にまつわる歴史 路面電車の歴史 弓と矢の歴史 桃太郎特集 岡山に関連する映画・作家・本閣などの、木彫りのもの 古代吉備と大和朝廷との関係、朝鮮半島との関係を前方後円墳を切り口にして展示して欲しい。 指定文化財を分野別かエリア別にして欲しい。</p>

(2) 第2次岡山県立博物館中期目標の達成状況について

中期目標の達成状況評価(令和元年度)

- (1) 評価の時期 翌年度初めに実施
 (2) 評価者 館全体で評価
 (3) 評価区分 次の1～5段階で実施

評価区分	内 容
5	目標水準を大きく上回った。 140%以上
4	目標水準を上回った。 110%以上 140%未満
3	概ね目標水準である。 90%以上 110%未満
2	目標水準を下回った。 60%以上 90%未満
1	目標水準を大きく下回った。 60%未満

(4) 結果の公表

評価結果は、「岡山県立博物館協議会」において報告するとともに、ホームページで公表します。

<参考> 博物館法第9条

博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

令和元年度の評価

項 目	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
1 資料の収集と保存・活用	3	3	3	3	3	3	2
2 調査・研究	3	3	3	3	3	3	3
3 施設の整備・管理	3	3	3	3	3	3	3
4 展 示	2	3	4	3	3	3	3
5 教育普及・学校教育との連携	3	2	3	3	3	3	3
6 県民参加の協働運営	3	3	3	3	3	3	3
7 組 織 ・ 人 員	3	1	3	3	3	3	2
総 合 評 価	3	3	3	3	3	3	3

■展示 H30: 3 → R元: 3

- ・令和元年度の入館者数は、年間で54,192人となり、2年ぶりに目標の5万人を達成した。
- ・昨年度に比べて館内授業は増加したものの、出前授業は減少している。

評価結果を踏まえた今後の課題と施策への反映

ハイグレードで魅力的な展示会の開催

- 1 国・県重要文化財を年間延べ50点以上展示
- 2 調査研究に基づいた新出資料、初公開資料の展示等

教育普及の充実

- 1 博物館事業についての資料の全学校への配付、あわせて、教育問題懇談会でも配付
- 2 小・中学校校長会の役員会での事業内容の説明及び積極的な利用促進の働きかけ

評価シート

目 標 項 目		評 価 指 標	中 期 目 標 値 (平成30年度)	令 和 元 年 度 実 施 結 果	評 価
1 資料の 収集と保 存・活用	資料の購入	資料の購入件数	必要に応じて予 算措置	0点/年	—
	寄付資料の受け入れ	新規寄付資料の受け 入れ件数	随時申し出に対 応	7件/年	—
	寄託資料の受け入れ	新規寄託資料の受け 入れ件数	随時申し出に対 応	2件/年	—
	資料の適切な保管	収蔵庫等の定期点検 回数	12回/年	12回/年	3
	展示室の資料保存環境 の点検	展示室等の定期点検 回数	50回/年	52回/年	3
	収蔵スペース確保の検 討	収蔵スペース確保の 検討 整理・整頓	随 時 4回/年	随 時 4回/年	3
	収蔵品の補修	収蔵資料の修復点数	2点/年	1点/年	1
	資料の活用	収蔵資料展示点数	2,000件/年	1,502件/年	2
	特別観覧利用件数	150件/年	91件/年	2	
平均評価					2
2 調査研 究	調査研究活動の強化	各学芸員の調査テー マの設定	6件/年 (各学芸員1テーマ)	6件/年 (各学芸員1テーマ)	3
	調査研究成果の公表	研究報告の発刊	1回/年	1回/年	3
		年報の発刊	1回/年	1回/年	3
		博物館だよりの発刊	1回/年	1回/年	3
		平常展、企画展、特別 展の開催	12回/年	9回/年	2
		博物館講座の開催	6回/年	7回/年	4
	外部研究機関等との連 携	共同研究テーマ数	2件/年	1件/年	1
平均評価					3

目 標 項 目		評 価 指 標	中 期 目 標 値 (平成30年度)	令和元年度 実施結果	評 価
3 施設の 整備・管理	安全な施設の維持管理	施設改善5カ年計画 の策定	緊急性の高い事案 から着手		—
		耐震化への取組	耐震診断の実施	改修設計の策定	—
	危機管理体制	来館者事故数	0件/年	0件/年	3
		防災訓練の実施	年2回開催	年2回開催	3
		安全衛生会議の開催	年3回開催	年4回開催	4
	利用環境の向上	入館者の満足度	90%以上	85%	3
平均評価					3
4 展 示	特 別 展	入館者数	18千人/年	21,963人/年	4
		実施回数	2回/年	2回/年	3
		中期計画策定	5カ年計画策定	5カ年計画策定	3
	企 画 展	入館者数	7千人/年	4,862人/年	2
		実施回数	1回/年	1回/年	3
		中期計画策定	5カ年計画策定	5カ年計画策定	3
	交 流 展	入館者数	7千人/年	7,496人/年	3
		実施回数	1回/年	1回/年	3
		中期計画策定	5カ年計画策定	5カ年計画策定	3
	平 常 展	入館者数	18千人/年	19,871人/年	4
		特別陳列	1回/各季節展	1回/各季節展	3
各展共通項目	関連事 業の充 実	記念講演会	1.5回以上/1展覧会	1.25回/1展覧会	2
		実演等	2.5回以上/1展覧会	0.75回/1展覧会	1
		展示解説	4回以上/1展覧会	3.7回/1展覧会	3
	展示方 法の改 善	キャプション 解説シート 英語・中国語・韓国語 表記	改 善 30枚 英語・中国語・ 韓国語表記	解説シート 既存42枚 15種 82枚の多言 語パネルを配置	5
平均評価					3

目 標 項 目		評 価 指 標	中 期 目 標 値 (平成30年度)	令 和 元 年 度 実 施 結 果	評 価	
5 教育普及・学校教育との連携	吉備の国ジュニア歴史スクール	実施コース数	2コース3日/年	3コース2日/年	3	
		参加児童数	90人/年	71人/年	2	
	博物館講座 ①スタンダードコース	開設講座数	4講座(2班)/年	4講座(1班)/年	3	
		参加受講者数	140人/年	58人/年	1	
	博物館講座 ②スペシャルコース	開設講座数	4講座/年	3講座/年	2	
		参加受講者数	120人/年	100人/年	2	
	体験学習 ①わくわく歴史体験ゾーン	参加体験型資料の充実	平成30年度末で			
			40点	39点	3	
	館内授業	実施学校数	50校/年	59校/年	4	
		受講児童生徒数	3,000人/年	2,577人/年	2	
	出前授業	実施学校数	30校/年	11校/年	1	
		受講児童生徒数	2,000人/年	925人/年	1	
	展示解説	聴講者数	20人/1解説日	46人/1解説日	5	
博物館実習	受け入れ学生数	20人/年	17人/年	2		
中学生職場体験	受け入れ学校数	10校/年	6校/年	2		
教職員研修	連携事業の実施回数	5回/年	2回/年	1		
	免許更新講習実施回数	2回/年	3回/年	5		
吉備の国文化遺産映像記録作成事業	作成テーマ数	30テーマ	30テーマ (H26 完成)	3		
ジュニア学芸員講座	受入生徒数	20人/年	20人/年	3		
平均評価					3	
6 県民参加の協働運営	広報活動	記者クラブへの資料提供件数	30件/年	29件/年	3	
		マスコミ取材件数(新聞への掲載)	120件/年	238件/年	5	
		広報手段の新規開拓	1件/年	0件/年	1	
	アンケートの実施	アンケートの回収率	15%/年	7.9%/年	1	
	ホームページの充実	HPアクセス数	200,000件/年	158,734件/年	2	

目 標 項 目		評 価 指 標	中 期 目 標 値 (平成30年度)	令和元年度 実施結果	評 価
		内容の更新頻度	週1回以上	週2回以上	5
	岡山県立博物館友の会	友の会会員数	400人/年	377人/年	3
		会員の継続率	前年会員の90.0%	前年会員の83%	3
		友の会事業実施回数	40回以上	37回	3
		特別展等観覧者率	4.0%	2.0%	1
		ボランティア受け入れ	展示解説ボランティア	11回/年 30人以上/年	8回/年 40人/年
	支援ボランティア		10回/年 30人以上/年	7回/年 38人/年	2 4
	地域社会と協働の展覧会の開催		共催団体数 (協賛含む)	1展覧会2団体 以上	4展覧会 1.5団体
		連携博物館数	2博物館/年	0博物館/年	1
	博物館協議会	協議会開催回数	2回/年	1回/年	1
	老人福祉施設等との連携	連携施設数(館内への受入のみ)	2施設/年	0施設/年	1
平均評価					3
7 組織・人員	学芸員の資質向上	研修会等への参加人数	10人/年	8人/年	2
平均評価					2
総合評価					3

(3) 県立博物館耐震改修工事等について

1 改修の方針

未耐震建築物の耐震補強と併せて、公開承認施設の基準を満たすために必要な改修を行い、使用を継続する。

2 工事の内容

- I 耐震改修
- II 屋上防水
- III 外壁改修
- IV 展示室内装改修
- V 収蔵庫改修
- VI 空調設備等の改修
- VII 展示ケースの改修等

3 改修に向けてのスケジュール

令和元年度 実施設計 黒川建築設計事務所

令和2年度 改修工事1年目、展示ケース設置

令和3年度 改修工事2年目、展示ケース設置

令和4年度 開館準備（約6ヶ月）

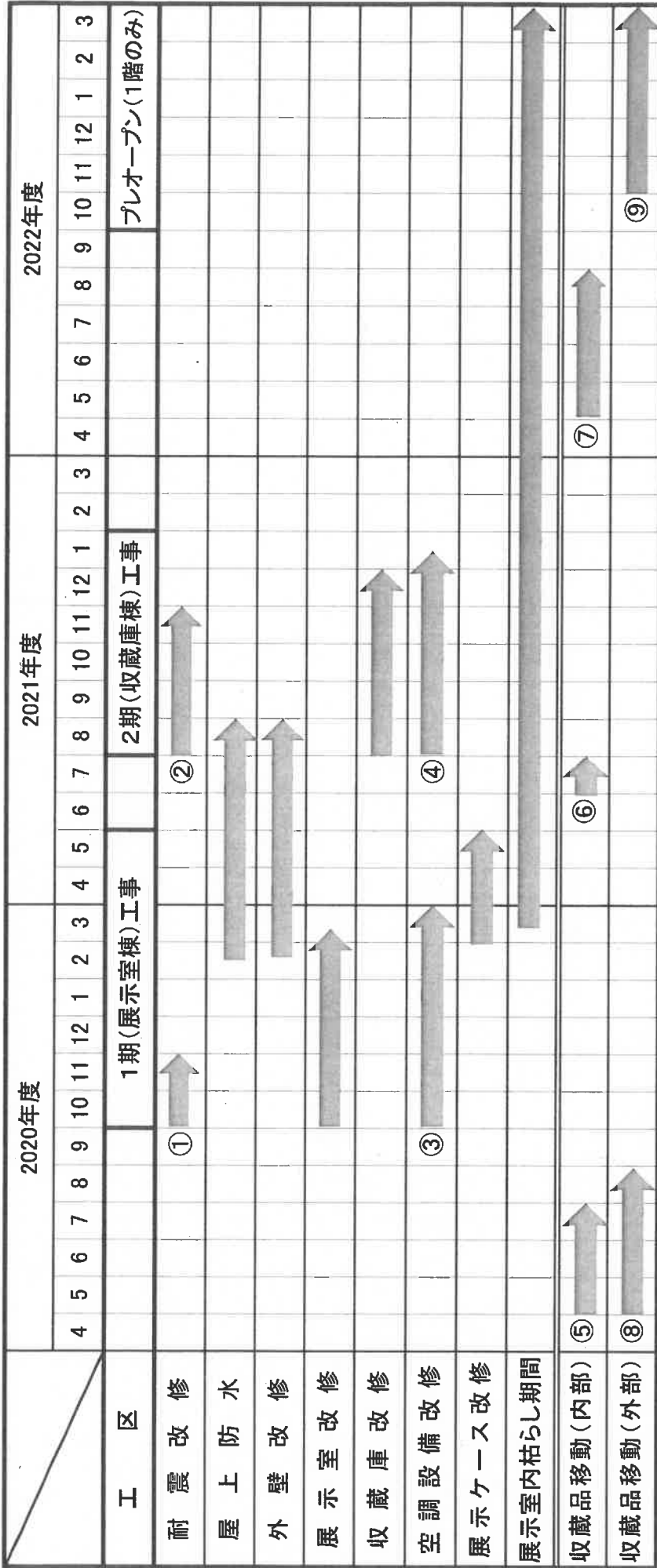
※令和4年秋頃リニューアルオープン（予定）

} 休館

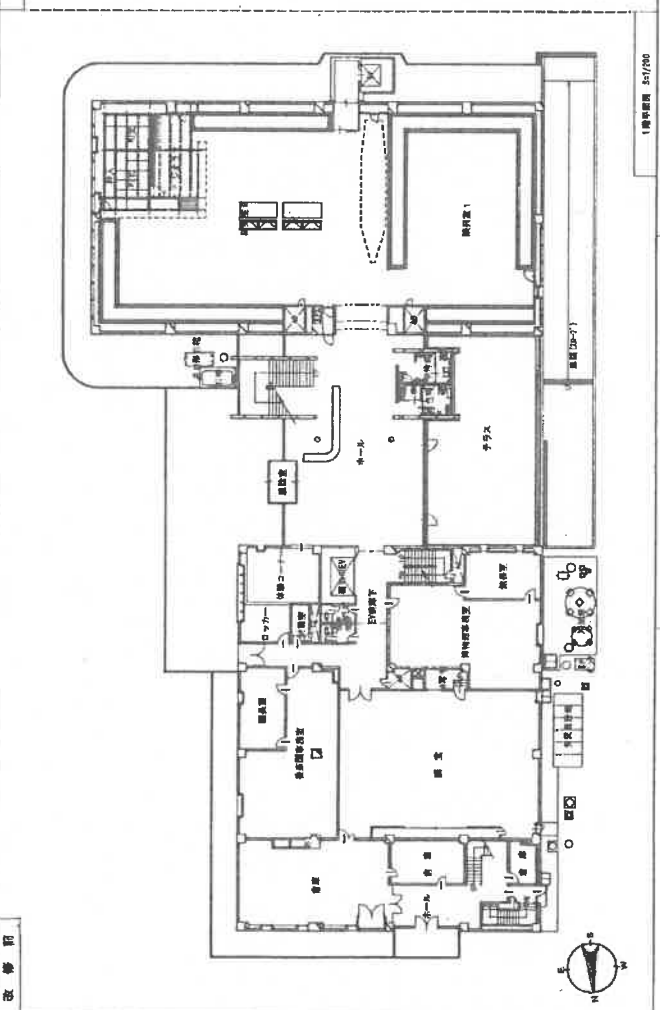
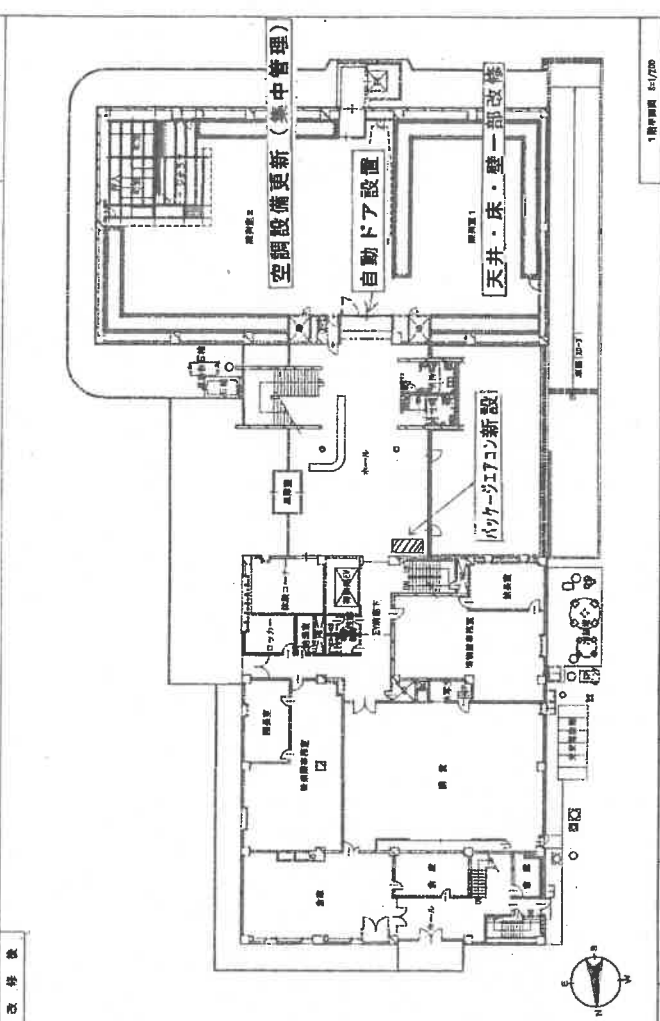
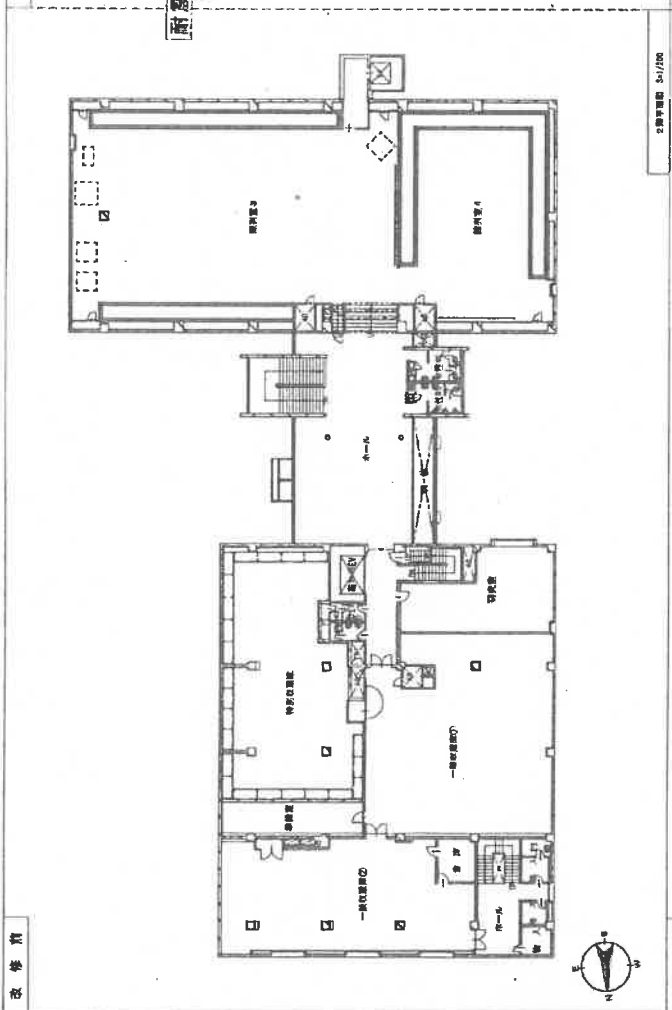
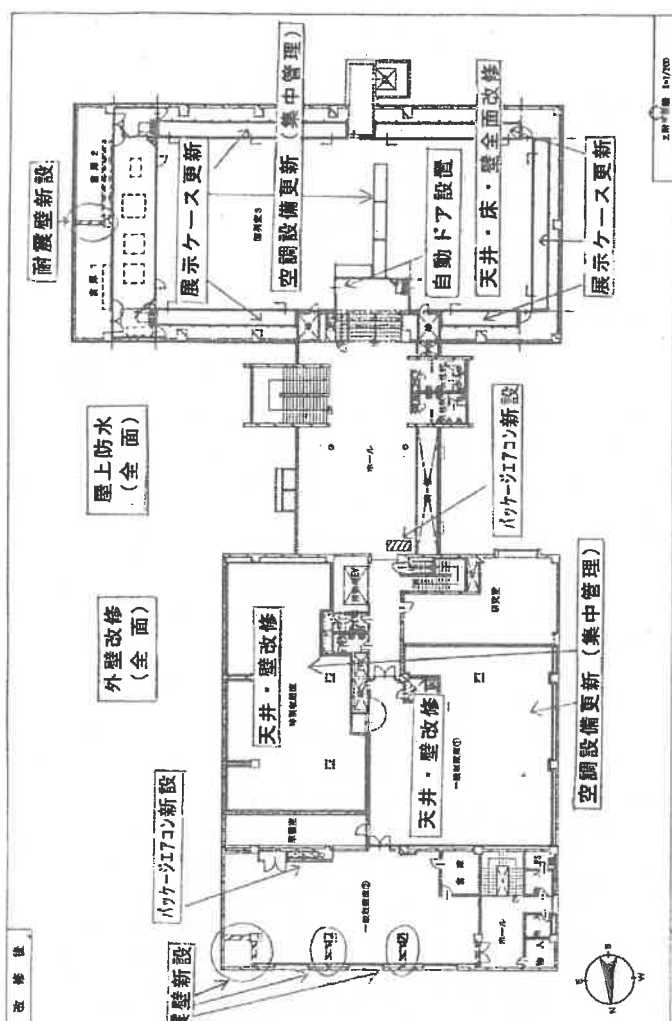
4 概算費用（工事費等）

総額 約6億円

岡山県立博物館耐震工事等改修スケジュール(予定)



- ① 展示室棟耐震補強工事
- ② 収蔵庫棟耐震補強工事
- ③ 展示室棟空調設備更新
- ④ 収蔵庫棟空調設備更新
- ⑤ 展示室内の収蔵品等を収蔵庫に移動
- ⑥ 収蔵庫内の収蔵品等を展示室に移動
- ⑦ 展示室内の収蔵品等を収蔵庫に移動
- ⑧ 県立博物館から他館へ、国宝・重要文化財等を移動
- ⑨ 他館から県立博物館へ、国宝・重要文化財等を移動



1階平面図 5/1700	2階平面図 5/1700	3階平面図 5/1700	4階平面図 5/1700
改修前	改修後	改修前	改修後
各階平面図			
奈良博物館改修工事			

岡山県立博物館耐震工事等改修内容

施		行			内		容	
耐震改修	2階展示室(東側突出部分)に耐震壁を新設、2階一般収蔵庫②に耐震壁を新設							
屋上防水	高圧洗浄＋下地調整の上、改質アスファルトシート防水【現況：塩ビシート防水＋改質アスファルト防水】							
外壁改修	下地クラック補修の上、ピンネット(アンカー固定)＋珪藻土調仕上材(展示室棟：断熱工法)【現況：磁器質モザイクタイル張り】							
内	天井	床	壁	照明	空調	備考		
展示室	岩綿吸音板設置	全面張り替え	全面塗り替え	既存スポットライトを活用	集中管理(更新)			
展示ケース	エアタイトケースに更新							
展示室入口自動ドア	新設							
収納倉庫	RC打ち放し	全面張り替え	RC打ち放し	LEDを新設	なし			東面に新設
ホール	既存のまま	既存のまま	既存のまま	LEDに更新	パッケージ(新設)			
展示室	岩綿吸音板設置	一部張り替え	一部塗り替え	既存スポットライトを活用	集中管理(更新)			
展示ケース	照明器具のみLEDに更新							
展示室入口自動ドア	新設							
ホール	既存のまま	既存のまま	既存のまま	LEDに更新	パッケージ(新設)			
特別収蔵庫	調湿建材・防湿シート	一部張替え	調湿建材・防湿シート	LEDに更新	集中管理(更新)			
一般収蔵庫①	調湿建材・防湿シート	既存のまま	調湿建材・防湿シート	LEDに更新	集中管理(更新)			防火扉新設
一般収蔵庫②	既存のまま	既存のまま	既存のまま	LEDに更新	パッケージ(新設)			防火扉新設
一般収蔵庫③	既存のまま	既存のまま	既存のまま	LEDに更新	集中管理(更新)			
一般収蔵庫④	既存のまま	既存のまま	既存のまま	LEDに更新	パッケージ(新設)			
総務課・館長室	既存のまま	既存のまま	既存のまま	更新済み	パッケージ(新設)			別途予算
学芸課	既存のまま	既存のまま	既存のまま	更新済み	パッケージ(新設)			別途予算
講堂	既存のまま	既存のまま	既存のまま	更新済み	パッケージ(新設)			別途予算

(4) 第3次岡山県立博物館中期目標の策定について

※アンダーラインは変更部分

1 現状

第2次中期目標：平成26（2014）年度～平成30（2018）年度
 （参考）第1次：平成21（2009）年度～平成25（2013）年度

2 現計画の延長

第2次中期目標：平成26（2014）年度～平成31（2019）年度

3 延長理由

- ・2020年度から2021年度2022年秋頃まで、改修工事のために博物館を休館するため、休館までの1年間、現計画を延長する。
- ・特別展・企画展などの展覧会内容や教育普及事業等について、リニューアル後の構想を踏まえた中期目標を休館中に検討・作成することで、より実態に即した計画を立案することが可能である。

4 第3次中期目標（案）

期間：2022年度～2026年度

【変更後】 期間：2023年度～2027年度

5 協議会での「第3次中期目標」に関する協議スケジュール（案）

① 2019年9月 2018年度実績報告

~~② 2020年3月 第3次中期目標策定に向けての意見交換(フリートーク)~~

※新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため中止

③ 2020年10月 2019年度実績報告

~~第3次中期目標（素案）提示、協議~~

第3次中期目標策定に向けての意見交換(フリートーク)

④ 2021年3月 第3次中期目標（素案）提示、協議

⑤ 2021年9月 第3次中期目標（最終案）提示、協議

⑥ 2022年3月 第3次中期目標作成（最終案）提示、協議

⑦ 2022年9月 第3次中期目標作成

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
展示関係	← 開館 →	← 休 館 →			【開館】 ← 全開館 →
工事関係	実施設計	改 修 工 事		準備	
協議会	① ②	③ ④	⑤ ⑥	<u>⑦</u> ⑧	(省略)

※2022年度の【開館】は、1階展示室のみのプレオープンとする

(たたき台)

第2・3次岡山県立博物館中期目標

—地域に生きる魅力ある博物館を目指して—

令和4年9月

~~平成26年8月~~ 策定

岡山県立博物館

目 次

はじめに	1
1 岡山県立博物館の使命と計画	2
2 資料収集と保存・活用	3
3 調査研究	4
4 施設の整備・管理	5
5 展 示	6
6 教育普及・学校教育との連携	8
7 県民参加の協働運営	10
① 広報活動の充実	
② 利用者のニーズや満足度を把握するためのアンケートの実施	
③ ホームページの充実	
④ 「岡山県立博物館友の会」の会員数の増加と事業の充実	
⑤ 県民が博物館活動に参加する仕組みとしてのボランティア受け入れと養成	
⑥ 関係機関や地域社会と協働の展覧会の開催	
⑦ 博物館協議会など外部意見の反映と外部評価	
⑧ 岡山カルチャーゾーン連絡協議会との連携	
⑨ 福祉の現場・老人施設等との連携	
8 組織・人員	12
9 財務・社会的支援	13
10 その他	13

はじめに

岡山県立博物館は、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的に、昭和46年に設置され、以後、県民はもとより、岡山県を訪れる多くの人々に利用され、岡山県の歴史・文化の情報発信基地として、様々な事業を展開してきました。

しかしながら、昭和から平成となり、21世紀を迎え、博物館の存在意義が問われるなど、博物館を取り巻く環境が大きく変化してきました。こうした中、持続可能な運営を維持するため、平成21年3月に、平成25年度を中期目標とする「岡山県立博物館中期目標」を策定し、地域に生きる魅力ある博物館を目指してまいりました。

この5年間の評価に基づく成果や課題並びに岡山県教育委員会が平成22年に策定した「岡山県教育振興基本計画」、岡山県が平成24年に策定した「第3次おかやま夢づくりプラン」及び平成26年に策定した「晴れの国おかやま生き活きプラン」等を踏まえ、今後5年間の新たな中期目標を策定し、その実現に向けて努力していきます。

1 岡山県立博物館の使命と計画

岡山県立博物館は、県内博物館の中核施設として、古代から連綿と伝わる輝かしい吉備の国の歴史と文化を保護保存し、県民共有の財産として後世に継承していくとともに、これらを全国に向けて情報発信することを使命とします。

この使命を遂行するため、「地域に生きる魅力ある博物館を目指して」平成30令和9年度を目標年度として、岡山県立博物館のあるべき姿や目指す方向性を示し、安定した経営を行う工夫改善を行い、県民の信頼と支援を得るよう努力します。

上記のことを踏まえ、岡山県立博物館の4つの使命を掲げます。

I 繋げよう岡山の歴史

現在、少子高齢化社会を迎え、担い手不足による文化財の滅失等が懸念されており、所有者・自治体・関係機関等と協働して、先人達が守り伝えてきた文化財を収集・保存し、岡山の歴史と文化を次世代へとつなげていきます。

II 伝えよう岡山の文化

岡山に存する多くの文化財を積極的に調査・研究し、その成果を展示・講座・講演会・出前授業など館内外の活動に活かし、児童から高齢者まで幅広い年齢層にわたり郷土岡山への愛着や誇りを醸成できるよう、岡山の歴史と文化を伝えていきます。

III 届けよう岡山の魅力

岡山後楽園など周辺にある文化施設や県内博物館等との連携による魅力向上と様々な媒体を利用した情報発信に努め、岡山の歴史と文化の「玄関口」として岡山の魅力を国内外に届けていきます。

IV 広めよう岡山の伝統

博物館が持つ様々な文化資源の活用を通じて、地域振興や観光振興に寄与し、長い歴史の中で築き上げられた岡山ならではの文化を活かしながら、若い世代に岡山の伝統を広めていきます。

2 資料収集と保存・活用

資料の収集・保存は、博物館の最も基本的な機能です。県民共有の貴重な文化財である資料を次世代に伝えるため、岡山県の歴史や文化に関する資料を中心に収集し、県民や博物館の諸活動への活用を図ります。

(1) 資料収集

- 資料収集は、購入、寄付及び寄託により行うことが原則ですが、本県財政の厳しい状況から、寄付、寄託を中心とした資料収集に努めます。
- 県教育委員会保管の県内出土文化財、文化庁所有の重要文化財についても、有効活用の観点から、毎年度、資料借用を行い、展示や調査研究に活用します。
- 長期寄託の文化財については、寄託者との連携を密にし、継続的に寄託されるよう努めます。

(2) 資料保存

- 収集した資料は、分類整理し、展示、調査研究、教育普及活動などに有効に活用します。
- 資料の良好な状態を保存するため、定期的に収蔵庫の点検を行うとともに、必要に応じて害虫・カビ等の防除対策を行います。
- 収蔵資料のうち、状態の悪いものについては、予算の範囲内で、計画的に補修を行います。

(3) 資料の活用

- 収集した資料は、本館の展示や県内・県外の各種展示に向けて積極的な活用を促進します。
- 資料の特別観覧（閲覧、撮影、出版物掲載等）等による収蔵資料の活用を図ります。

項目	中期目標の内容	評価指標	実績 (平成25年度)	中期目標値 (平成30年度)
資料の購入	文化財の県外・海外での散逸を防ぐとともに、劣化やき損のおそれのある文化財を護るため、保存管理の措置を講ずる必要のあるものについて購入に努める。	資料の購入件数	0点/年	必要に応じ予算措置
寄付資料の受け入れ	資料の安全な保管と展示公開や研究の促進を図るため、資料の寄付の積極的な受け入れを図ります。	新規寄付資料の受け入れ件数	30件/年	随時申し出に対応
寄託資料の受け入れ	資料の安全な保管と展示公開や研究の促進を図るため、資料の寄託の積極的な受け入れを図ります。	新規寄託資料の受け入れ件数	6件91点/年	随時申し出に対応
資料の適切な保管	収蔵庫の定期点検や資料の燻蒸等により、資料の安全な保管に努めます。	収蔵庫等の定期点検回数	13回/年	12回/年

展示室の資料 保存環境の点 検	展示室の定期点検により、資料の安全な 保管に努めます。	展示室等の定期 点検回数	50回/年	50回/年
収蔵スペース 確保の検討	収蔵資料の増加に伴う、収蔵スペースの 確保に向けた方策の検討を行います。	収蔵スペース確 保の検討	随 時	随 時
		整理・整頓	4回/年	4回/年
収蔵資料の補 修	緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、 緊急性の高いものから各分野ごとに計 画的に修理を実施します。	収蔵資料の修復 点数	2点/年	2点/年
資料の活用	資料の館内展示や特別観覧（閲覧、撮影、 出版物掲載等）等による収蔵資料の活用 を図ります。	収蔵資料展示点 数	2,757点/年	2,000点/年
		特別観覧利用件 数	140件/年	150件/年

3 調査研究

調査研究は、博物館事業の根幹をなす収集・整理・保存と展示や教育普及事業など博物館の諸活動を向上させるための重要な活動であることから、重点的に取り組みます。

- (1) 収蔵資料の学術的な研究を行うとともに、収集・保存・展示・教育普及事業など博物館の諸活動に関する研究を行います。
- (2) 県内外の研究者、資料所有者などとの交流を行い、館外の関連資料についても、幅広く調査し、調査研究成果や情報を公表します。
- (3) 学芸員は、調査研究計画を作成し、専門分野ごとに岡山県の歴史や文化に関するテーマを設定し、継続的に研究を行います。
- (4) 研究成果については、展示や博物館講座、教育普及事業などの博物館業務の他、学校教育と連携した館内授業や出前授業などを通じて広く県民に公開するとともに、研究成果報告書（研究報告）や博物館だよりなどを通して、県内外の社会教育施設や研究機関の利用に供します。
また、このような研究成果を基に他館等への助言や展示指導を行うとともに、広く県民の求めに応じて、質問・相談等に積極的に対応します。

項 目	中 期 目 標 の 内 容	評 価 指 標	実 績 (平成25年度)	中 期 目 標 値 (平成30年度)
調査研究活動の強化	調査研究計画を策定し、その成果を展示活動に活かします。	各学芸員の調査テーマの設定	6件/年 (各学芸員1テーマ)	6件/年 (各学芸員1テーマ)
調査研究成果の公表	研究報告等の出版のほか展示や教育普及活動を通じた成果の活用を図ります。	研究報告の発刊	1回/年	1回/年
		年報の発刊	1回/年	1回/年
		博物館だよりの発刊	1回/年	1回/年
		平常展、企画展、特別展等の開催	12回/年	12回/年
		博物館講座の開催	7回/年	6回/年
外部研究機関等との連携	他の博物館や大学、研究団体等との連携による共同研究を促進します。	共同研究テーマ数	1件/年	2件/年

4 施設の整備・管理

岡山県立博物館は、開館以来43年が経過し、施設の老朽化が進行するとともに、施設機能や規模等の面でも県立施設としては、十分な役割や機能が果たせてない状況です。

このため、利用者が快適で安全な環境の中で過ごせるよう、施設の適切な維持管理に努めるとともに、耐震状況を把握するため耐震診断を実施します。また、高齢者や障害者及び外国人等への配慮した施設の改善に努めます。

項 目	中 期 目 標 の 内 容	評 価 指 標	実 績 (平成25年度)	中 期 目 標 値 (平成30年度)
安全な施設の維持管理	老朽化した施設の計画的な改善に努めます。	施設改善5カ年計画の策定	冷却装置交換	緊急性の高い事案から着手
	耐震化への取組	耐震化への取組		耐震診断の実施
外国人来館者への配慮	外国語表記の充実	案内板の他言語表記の充実	案内板に英語表記付加	中国語、韓国語への対応

危機管理体制の強化	防災意識の向上など危機管理体制のさらなる強化を目指します。	来館者事故数	0件/年	0件/年
		防災訓練の実施	2回/年	年2回開催
		安全衛生会議の開催	3回/年	年3回開催
利用環境の向上	指定管理者による館内施設の利用環境の維持管理とその向上に努めます。	入館者の満足度	74%	90%以上

5 展 示

岡山県立博物館は、岡山県の歴史や文化をテーマとして、県民文化の向上や郷土に対する理解を深めるとともに、県内の博物館の中核施設として全国に情報発信するため、特別展、企画展、近県と共同開催する交流展など様々な展示活動を実施しています。

今後は、より魅力的な博物館とするため、県民ニーズに合った、時機を得た企画による展示を行い、貴重な資料や情報を公開し、県民の知的財産の増進に寄与していきます。

また、中四国地域や首都圏及び関西圏の博物館と連携を深め、博物館の相互連携活動の充実に努めます。

特に、入館者に展示の意図をわかりやすく伝える努力をするとともに、多彩な関連事業を実施し、入館者の増加に努め、中期目標として年間5万人の入館者を目指します。

(1) 特別展

- ・特別展は、県内で実施されるイベントや、地域社会との連携を考慮し、県民にとって、時機を得た興味を喚起するテーマを設定し、年間2回実施します。

(2) 企画展

- ・企画展は、学芸員の調査研究成果を発表する場でもあり、県民にとって魅力あるテーマやメッセージ性のあるテーマを設定し、年1回実施します。

(3) 交流展

- ・交流展は、これまでの交流展の実績を踏まえ、中四国地域の博物館との連携を深め、相互連携活動を充実させます。また、首都圏や関西圏の博物館との連携を進め、岡山の歴史と文化を全国に情報発信するよう努めます。

(4) 平常展

- ・平常展は、展示内容、展示手法を適宜見直し、考古、美術工芸、文書、民俗、刀剣、備前焼の各分野ごとに収集資料の有効活用に努めます。また、各季節展においては、特別陳列を1テーマ設定するよう努めます。更に、岡山県の歴史が分かる常設展示ができるよう工夫します。

(5) 実施上の留意点

- ・ 展示会ごとに、開催目的、開催対象、期待する効果、展示方法、広報活動等を勘案の上目標を設定します。
- ・ 展示解説や展覧会に関連する記念講演会や実演など多彩な関連事業を実施します。
- ・ 特別展については、図録の発刊を行います。
- ・ 関連する各種団体や地域社会及び市町村等の支援が得られるよう共同開催に努めます。
- ・ 報道各社との連携を密にし、開催期間中に頻繁に報道されるよう努めます。
- ・ 県民にわかりやすい展示方法の改善工夫に努めます。
- ・ 外国人入館者の増加にともない、展示品の名称・解説等を多言語表記するよう努めます。

項目	中期目標の内容	評価指標	実績 (平成 25 年度)	中期目標値 (平成 30 年度)
特別展	県内で実施されるイベントや、地域社会と連携し、県民にとって、時機を得た興味を喚起するテーマを設定し実施します。	入館者数 実施回数 中期計画策定	11,051人/年 2回/年 5カ年計画策定	18千人/年 2回/年 5カ年計画策定
企画展	学芸員の研究成果を、県民にとって魅力あるテーマやメッセージ性のあるテーマを設定し実施します。	入館者数 実施回数 中期計画策定	4,119人/年 1回/年 5カ年計画策定	7千人/年 1回/年 5カ年計画策定
交流展	首都圏や関西圏及び中四国地域の博物館との連携を深め、相互連携活動を充実させます。	入館者数 実施回数 中期計画策定	6,758人/年 1回/年 5カ年計画策定	7千人/年 1回/年 5カ年計画策定
平常展	展示内容、展示方法を適宜見直し、各季節展では、特別陳列を行います。また、常設展示ができるよう工夫します。	入館者数 特別陳列 常設展示	10,623人/年 1回/各季節展	18千人/年 1回/各季節展 通年
各展共通項目	関連事業の充実を図ります。	記念講演会 実演等 展示解説	1.5回/1展覧会 2.3回/1展覧会 4.2回/1展覧会	1回以上/1展覧会 2.5回以上/1展覧会 4回以上/1展覧会
	展示方法の改善を図ります。	キャプション 解説シート 多言語表記 (名称・解説等)	24枚	改善 30枚 英語・中国語・韓国語表記

【入館者数実績】

年 度	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	備 考	
入館者数	特別展	12, 418	12, 749	17, 674	19, 237	11, 051	
	企画展	20, 785	7, 969	6, 760	8, 676	4, 119	2回→1回24年度～
	交流展	6, 124	10, 909	5, 397	9, 655	6, 758	
	平常展	13, 675	9, 023	10, 619	11, 016	10, 623	
	計	53, 002	40, 650	40, 450	48, 584	32, 551	65歳以上有料 22年度～

6 教育普及・学校教育との連携

岡山県の歴史と文化に対する理解を深めるため、教育普及活動を計画的に実施します。また、小・中・高等学校の学習指導要領にもとづき、博物館を見学したり、文化財を観察したりする等の活動を取り入れ、学校教育での博物館利用を促進し、学校教育との連携に努めます。

(1) 吉備の国ジュニア歴史スクール

小学生を対象に県内の史跡等をバスツアーで見学するとともに、県立博物館で関連の学習を行い、学習の成果を各学校で発表する（2コース、各3日）事業を実施します。

(2) 博物館講座

① スタンダードコース

県民を対象に、本館学芸員を中心とした職員が博物館資料を活用し、研究成果を解説します。

[2班、各4日間、4講座、定員：各70人]

② スペシャルコース

県民を対象に、各分野で活躍する研究者による岡山の歴史と文化に関するテーマで講演します。

[4講座、定員：120人]

(3) 体験学習

① わくわく歴史体験ゾーン

子ども達を対象に、郷土や我が国の歴史に親しんでもらうため、参加体験型の資料により、遊んで学べる歴史体験ゾーンの充実を図ります。

(4) 館内授業・出前授業

県内の小中高校生を対象に博物館で実物資料に触れたり、展示を見学したりしながら授業を行います。また、本館学芸員が実物資料を持って学校に出向いて授業を行います。

(5) 展示解説

毎月、第2・4土曜日に本館学芸員が専門分野を中心に展示内容を解説します。
特別展、企画展、交流展においては、毎土曜日に展示解説を行います。

(6) 博物館実習

県内大学を中心に、学芸員資格取得希望学生に博物館実習を行います。

(7) 中学生職場体験

県内各中学校からの要望に応じて、中学生の職場体験を受け入れます。

(8) 教員研修の実施

岡山県総合教育センターと連携し教員研修を実施します。
県内大学と連携し、免許更新講習を実施します。

(9) 吉備の国文化遺産映像記録作成・活用

テーマ別に岡山県の歴史や文化を概観できる映像資料を作成し、博物館内での映像視聴や岡山県立図書館が運営するデジタル岡山大百科での配信を通じて、広く利活用が図られるように努めます。

(10) ジュニア学芸員講座

中学生・高校生を対象に、将来の学芸員や博物館ファンを育成するため、博物館学芸員の仕事を実際に体験してもらう講座を実施します。

項目	中期目標の内容	評価指標	実績 (平成25年度)	中期目標値 (平成30年度)
吉備の国ジュニア歴史スクール	史跡や博物館をバスツアーで見学し、学習の成果を各学校で発表します。 (2コース、各3日)	実施コース数 参加児童数	2コース3日/年 86人/年	2コース3日/年 90人/年
博物館講座 ①スタンダードコース	本館学芸員を中心とした職員が博物館資料を活用し、研究成果を解説します。	開設講座数 参加受講者数	8講座(2班)/年 126人/年	4講座(2班)/年 140人/年
博物館講座 ②スペシャルコース	各分野で活躍する研究者による岡山の歴史と文化に関するテーマで講演します。	開設講座数 参加受講者数	4講座/年 100人/年	4講座/年 120人/年
体験学習 ①わくわく歴史体験ゾーン	参加体験型の資料により、遊んで学べる歴史体験ゾーンの充実を図ります。	参加体験型資料の充実	23点	平成30年度末で40点

館内授業	県内の小中高校生を対象に博物館で資料に触れたり、展示を見学しながら授業を行います。	実施学校数 受講児童生徒数	44校/年 2,582人/年	60校/年 3,000人/年
出前授業	本館学芸員が学校に出向いて授業を行います。	実施学校数 受講児童生徒数	27校/年 1,923人/年	30校/年 2,000人/年
展示解説	毎月、第2・4土曜日に本館学芸員が専門分野を中心に展示内容を解説します。特別展、企画展、交流展においては、毎土曜日に実施します。	聴講者数	15人/1解説日	20人/1解説日
博物館実習	県内大学を中心に、学芸員資格取得希望学生に博物館実習を行います。	受け入れ学生数	15人/年	20人/年
中学生職場体験	県内各中学校からの要望に応じて、中学生の職場体験を受け入れます。	受け入れ学校数	10校/年	10校/年
教職員研修	岡山県総合教育センターと連携し教員研修を実施します。 県内大学と連携し、免許更新講習を実施します。	連携事業の実施回数 免許更新講習実施回数	4回/年	5回/年 2回/年
吉備の国文化遺産映像記録作成・活用	テーマ別に岡山県の歴史や文化を概観できる映像資料を作成し、広く利活用を図ります。	作成テーマ数	10テーマ	30テーマ
ジュニア学芸員講座	中学生・高校生を対象に、博物館学芸員の仕事を体験する講座を開催します。	受入生徒数	19人/年	20人/年

7 県民参加の協働運営

岡山県立博物館は、県民参加と連携を深めることによって、地域や社会から信頼と協力を得ることができ、社会に貢献することができます。このため次の事業を積極的に展開します。

(1) 広報活動の充実

博物館活動に関連する様々な情報をより多くの人々に知ってもらい、博物館の利用者が増えるよう広報媒体を関係諸機関（報道機関・学校・社会教育施設等）に好機に配布するなど、情報発信機能を強化します。

(2) 利用者のニーズや満足度を把握するためのアンケートの実施

博物館に対する県民の意見が、博物館の運営に反映するよう、年間を通して来館者アンケートを実施します。

(3) ホームページの充実

博物館ホームページ（フェイスブックを含む）を一層充実させるとともに、タイムリーな更新に努めます。

(4) 「岡山県立博物館友の会」の会員数の増加と事業の充実

友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、充実、活性化を図ります。

(5) 県民が博物館活動に参加する仕組みとしてのボランティア受け入れと養成

地域住民の博物館活動への参画と来館者サービスの向上を図るため、展示解説ボランティアや博物館活動支援ボランティアの積極的な導入に努めます。

(6) 関係機関や地域社会と協働の展覧会の開催

館単独での事業運営には限界があるため、地域社会と協働の展覧会の開催や、複数の博物館の相互連携活動を推進します。

(7) 博物館協議会など外部意見の反映と外部評価

博物館の運営に関し、博物館協議会の意見等を尊重し、館の運営に反映します。また、博物館協議会による外部評価を実施し、博物館活動の改善に役立てます。

(8) 岡山カルチャーゾーン連絡協議会との連携

岡山カルチャーゾーン連絡協議会の中核的施設として、他の施設との連携を一層強化し、地域の文化の向上に努めるとともに、ゾーン内の心豊かなまちづくりにも積極的に参画します。

(9) 福祉の現場・老人施設等との連携

福祉・医療現場では、高齢者が懐かしさを満喫し、互いの思い出を語り合うことで機能の回復や高齢者ケアを果たす「回想法」の活用が進められています。当館でも、収集する昭和時代の民具等の資料を活用して福祉団体との連携を図り、高齢者が笑顔にあふれ、生き生きと会話のはずむ博物館の利用を目指します。

項目	中期目標の内容	評価指標	実績 (平成25年度)	中期目標値 (平成30年度)
広報活動	広報媒体を関係諸機関（報道機関・学校・社会教育施設等）に好機に配布します。	記者クラブへの資料提供件数	25件/年	30件/年
		マスコミ取材件数	113件/年	120件/年
		広報手段の新規開拓	1件/年	1件/年
アンケートの実施	年間を通して来館者アンケートを実施します。	アンケートの回収率	9%/年	15%/年

ホームページの充実	博物館ホームページを一層充実させます。	HPアクセス数	109,579 件/年	200,000 件/年
		内容の更新頻度	月 1 回以上	週 1 回以上
岡山県立博物館友の会	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、充実、活性化を図ります。	友の会会員数	352 人/年	400 人/年
		会員の継続率	前年会員の 81.7%	前年会員の 90%
		友の会事業実施回数	40 回	40 回以上
		特別展等観覧者率	2.7%	4.0%
ボランティア受け入れ	展示解説ボランティアや博物館活動支援ボランティアの積極的な導入に努めます。	展示解説ボランティア	11 回/年 32 人/年	10 回/年 30 人以上/年
		支援ボランティア	11 回/年 26 人/年	10 回/年 30 人以上/年
地域社会と協働の展覧会の開催	地域社会と協働の展覧会の開催や、複数の博物館の相互連携活動を推進します。	共催団体数	1 展覧会 1.75 団体	1 展覧会 2 団体以上
		連携博物館数	2 博物館/年	2 博物館/年
博物館協議会	博物館協議会の意見等を尊重し、館の運営に反映させます。博物館協議会による外部評価を実施します。	協議会開催回数	2 回/年	2 回/年
		外部評価の実施	1 回/年	1 回/年
老人福祉施設等との連携事業	福祉団体等と連携し、昭和時代の民具等を活用し、高齢者が笑顔にあふれ、生き生きと会話のはずむ博物館の利用を目指します。	連携施設数 (館内への受入のみ)	2 施設/年	2 施設/年

8 組織・人員

岡山県教育委員会と連携を密にし、館内各課間の情報の共有化を図るなど、効率的な組織運営に努めます。また、職員の適正な配置に努めるとともに、職員一人一人の能力や資質の向上に努めます。

特に、学芸員は博物館の専門的職員として、その力量を最大限発揮できるよう能力開発・資質向上に努めます。

項目	中期目標の内容	評価指標	実績 (平成25年度)	中期目標値 (平成30年度)
学芸員の資質向上	定期的に研修会へ参加し、能力開発・資質向上や最新研究成果の吸収・活用に努めます。	研修会への参加人数	10人/年	10人/年

9 財務・社会的支援

県予算が単年度予算であるため、計画期間における各年度の事業費等を含めた総支出額を推計することは困難ですが、施設運営の基本である入館料については努力目標を設定し、その達成に努めます。

また、積極的な事業展開や円滑な事業実施に向けて、文化庁補助事業による国費の確保や各種団体からの支援を積極的に求めます。

(ア) 参考

【入館料収入実績】

単位：千円

	H21	H22	H23	H24	H25	備考
入館料収入	4,571	6,112	7,697	8,677	4,300	

◎中期目標数値：8,000千円

平成22年9月から値上げ(65歳以上の有料化)

10 その他

(1) 事業実施の評価

当館の展示及び各種事業の効果については、今回策定した第2次中期目標に基づき、新たな評価指標を設定し、これらに基づく事業評価を実施します。また、評価結果については、岡山県立博物館協議会へ報告し、外部評価も併せて行います。なお、第2次中期目標の進捗状況については、毎年度、岡山県立博物館協議会へ報告し、意見を求め、業務運営の改善に反映させます。

(2) 第2次中期目標の見直し等

本目標は、平成21年に策定した中期目標に対する評価に基づく成果や課題並びに岡山県教育委員会が平成22年に策定した「岡山県教育振興基本計画」、岡山県が平成24年に策定した「第3次おかやま夢づくりプラン」及び平成26年に策定した「晴れの国おかやま生き生きプラン」等を踏まえ策定したものですが、今後、県立博物館を取り巻く社会状況に著しい変化が生じた場合は、目標期間中にもかかわらず、必要に応じて見直します。

岡山県立博物館協議会委員

任期2年（平成31年2月5日～令和3年2月4日）

令和2年10月現在

番号	氏名	区分	現職	就任年月	備考
1	清友 尚	学校教育関係者	真庭市立月田小学校長	H30. 4	
2	小田 洋子	"	瀬戸内市立牛窓中学校長	H27. 2	
3	福本 まゆみ	"	岡山県立総社南高等学校長	H28. 7	
4	村木 生久	社会教育関係者	岡山県生涯学習センター所長	H29. 7	議長
5	延江 典子	"	岡山県青年団協議会事務局次長	H25. 2	
6	美咲 美佐子	家庭教育関係者	NPO法人岡山市子どもセンター代表理事	H31. 2	
7	中嶋 一裕	学識経験者	(株)ビザビ コミュニケーション局局长	H29. 2	
8	岡野 英美	"	NPO法人ENNOVA OKAYAMA会員	H29. 2	
9	岡本 隆明	"	(株)山方永寿堂代表取締役会長	H23. 2	副議長
10	光本 順	"	岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授	H26. 7	
11	三田 智子	"	就実大学人文科学部総合歴史学科講師	H31. 2	
12	伊勢崎 晃一郎	"	日本工芸会中国支部陶芸部会委員	H31. 2	
13	名木田 いづみ	"	RSK山陽放送(株)ラジオ局ラジオ営業推進部長	H28. 7	
14	神辺 英明	"	(株)山陽新聞社編集局次長 兼 文化部長	R 2. 5	【新任】
15	鳥井 良輔	"	岡山県議会議員	H27. 6	

岡山県立博物館協議会条例

〔昭和46年6月25日〕
〔岡山県条例第47号〕

(設置)

第1条 岡山県立博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、岡山県立博物館に岡山県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(委員の任命の基準)

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

(委員の定数)

第3条 委員の定数は、20人以内とする。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(その他)

第5条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、昭和46年7月1日から施行する。

2 (略)

岡山県立博物館協議会運営規則

〔昭和46年7月1日〕
〔岡山県教育委員会規則第13号〕

(趣旨)

第1条 この規則は、岡山県立博物館協議会条例（昭和46年岡山県条例第47号）第5条の規定に基づき、岡山県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(議長及び副議長)

第2条 協議会の会議（以下「会議」という。）に、議長及び副議長を置く。

2 議長及び副議長は、岡山県立博物館協議会の委員（以下「委員」という。）の互選により定める。

3 議長及び副議長の任期は、委員としての在任期間とする。

4 議長は、会議を主宰する。議長に事故のあるときは、副議長がその職務を代行する。

(招集)

第3条 会議は、岡山県立博物館長が招集する。

2 会議の招集は、会議開催の場所、日時及び会議に付すべき案件をあらかじめ各委員に通知して行なう。ただし、緊急の場合は、この限りでない。

(定足数及び表決)

第4条 会議は、委員の過半数以上が出席しなければ開くことができない。

2 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(職員の説明及び資料の提出)

第5条 委員は、会議において関係職員に対して、説明又は資料の提出を求めることができる。

(職員の出席)

第6条 関係職員は、会議に出席して意見を述べることができる。

(その他)

第7条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は協議会が別に定める。

附 則

(施行期日)

この規則は、公布の日から施行する。

職 員 一 覧

教育委員会事務局

職 名	氏 名	備 考
文化財課長	小林 伸明	

岡山県立博物館職員

職 名	氏 名	備 考
館 長	高 見 英 樹	(教育次長本務)
副 館 長	塩 田 勇	(総務課長事務取扱)
総 括 参 事	横 山 定	(学芸課長事務取扱)
総務課	主 幹	平 井 利 尚
	主 事	石 原 果 步
学芸課	学芸員 (主幹)	重 根 弘 和
	学芸員 (主幹)	秋 山 亮
	学芸員 (主任)	野 田 繭 子
	学芸員 (主任)	宇 垣 匡 雅
	学 芸 員	西 垣 江 利 子
	学 芸 員	岡 崎 有 紀